

体育

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
体育	スポーツⅡ	2	2年次・E1群	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
現代高等保健体育 （大修館）		ACTIVE SPORTS		・自己の体に関心を持ち、互いに協力して、運動の実践をしようとする者。 ・運動部活動に入部している者。

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
球技の特性についての理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これからのスポーツの高度な技能と審判法を習慣化できるようにするとともに、技能を発揮してゲームをすることができる資質や能力を育てる。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
・スポーツⅡを多様に実践するための事項を理解している。 ・スポーツⅡを通してスポーツを推進及び発展するための事項を理解している。 ・球技の多様な楽しさや喜びを深く味わうとともに、多様な志向及び体力や技能等の違いの中で球技を継続的に楽しむことができる技能や、イベントの運営、地域スポーツの推進に貢献するなど、球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方に関する技能を身に付けている。	・「する、みる、支える、知る」など、自己や仲間が多様に「スポーツⅡ」と関わる上で文化的、社会的、経済的側面など多角的な視点での課題を発見し、主体的に思考し判断したことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間や教師などに筋道を立てて理論的に伝えたりすることができる。	・科目のねらいを達成するための学習に主体的に取り組もうとする意思をもつことができる。 ・公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとすることに意欲を高めた、自己や仲間の体力や技能の程度等に配慮したり事故の危険性を未然に回避したりするなど、健康・安全を確保することができる。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1学期	1	バレーボール	4 5 6 7	・ネットをはさんでボールを打ち合うネット型のゲームの特性を理解し、チームの特徴を生かした攻撃と防御の連携プレーをゲームで発揮できるようにする。 ・ルールを理解し、仲間と協力して、ゲームの企画・運営ができるようにする。	1 2 3
	2学期	2	バスケットボール	9 10 11 12	・ゲームの特色と攻防のフォーメーションを知り、ゲームができるようにする ・ルールを理解し、仲間と協力して、ゲームの企画・運営ができるようにする。 ・連携プレーや個人の特性に応じたポジションなどを理解し、作戦を立てて、ゲームができるようにする。	1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	3	バドミントン	1	・使えるフラインクのバリエーションを増やし、ダブルスのゲームができるようにする。	1 2 3	
	3		2	・各ショットの基本を身に付け、ラリーやゲームを楽しみながら、体力の向上をはかる。		
			3			
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現		3. 主体的に学習に取り組む態度	
	規 準	○球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることについて、言ったり書きだしたりしている。 ○課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通して学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、言ったり書き出したりしている。 ○競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などについて、言ったり書き出したりしている。 ○相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。 ○仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きをすることができる。		○チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。 ○チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。 ○体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。 ○球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。		○作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。 ○一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ○仲間の課題を指摘するなど互いに助け合い高め合おうとしている。 ○危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。
	手 段	・定期考査 ・実技テスト		・練習や試合中の行動の観察 ・定期考査 ・授業中の態度の観察 ・出席状況		
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末及び学期末に実技評価を行い、学期末には定期考査を実施する。出席・態度・意欲の評価を含め学期末・年次末には総合的に評価する。			
	学習上の留意点	・実技を中心とするため出席を重視する。				